

【第 24 回日本緩和医療学会学術大会（一般演題）】

<演題名>

在宅支援診療所、有床診療所における心不全の緩和医療についての現状と課題
～医療スタッフの認識と考え方について調査～

<演者・共著者>

石井 太*1、龍野 八重子*2、伊藤俊一郎*3、

*1 メドアグリクリニック 薬剤科 *2 メドアグリクリニック 看護師

*3 メドアグリクリニック 医師

<本文>

【目的】現在、心不全に対する治療と連携した緩和医療が必要とされつつあるが、在宅医療においてはそれに関わるスタッフの現状と課題についての報告は少ない。本研究では、在宅支援診療所と有床診療所におけるスタッフの心不全の緩和医療に対する認識を調査し、現状を確認、課題を考察することである。

【方法】メドアグリ内の在宅支援診療所、有床診療所に在籍している医師、看護師、介護士、栄養士、リハビリ等スタッフ（計 54 人）に自記式質問紙調査を実施した。

【結果】計 32 人より回答を得た。今までがん患者の緩和医療に携わったことはある（40.6%）、心不全患者に携わったことはある（59%）、心不全の緩和医療に関して名前だけでも知っている（33%）、という結果だった。しかし、心不全の緩和医療を実践したいと思う割合は 57%であった。また心不全患者の緩和医療で何が必要かという質問に関しては「呼吸困難感の改善」という意見が多かった。概ね多いコメントとして、「何をしたら良いのか分からない」というコメントが多かった。

【考察】緩和医療の研修を実施出来ていない施設のスタッフにおいては、心不全患者に関わる機会もあり、緩和医療に関する経験があっても心不全の緩和医療に関して認識のないことが分かった。しかし、実践する意欲はあるので定期的な研修・教育を行うことにより、医療スタッフの意識を向上できる可能性が示唆された。